第２回教師みらいセミナーが開催されました！

令和７年度　第２回教師みらいセミナー
　７月１２日（土）　９：30～12：00　＠宮崎大学ひなたキャンパス
　◎内容
　　「学校で道徳を教える必要があるか」
　　・宮崎大学大学院教育学研究科　教授　椋木 香子

　◎参加者数
　　会場参加　６７名　　オンライン参加　５４名　　計１２１名

　今回のセミナーは、「道徳」をテーマに行われました。
　本題に入る前に、椋木先生が自己紹介も交えながら、宮崎大学教育学部の各コースの特色や研究内容について簡単に紹介されました。高校生の皆さんは、教育学の中にもいろいろな研究分野があることを興味深い様子で聴いていました。
　そして、本題の道徳について、グローバル化の進展や社会・経済の変化の中で、多様な価値観を認めつつ、他者と対話し協働しながら、より良い方向を目指す資質・能力を備えることがこれまで以上に必要という考えから、道徳が教科化されたという経緯を説明されました。また、道徳の教科化は、「答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う『考え、議論する道徳』への転換を図るものである」ことを説明され、これまでの道徳の時間との違いについて話されました。高校生は、自分の受けてきた授業のことも思い出しながら、説明を聞いていました。以上のことをふまえて、グループで「学校で道徳を教える必要があるか」を話し合いました。「道徳のような答えのないことについて考えたりする能力を育てるために必要」、「自分と違う価値観の人の考えを受け入れる能力をつけるために必要」、「道徳の時間は必要だが、教科化されると、評価されるから頑張ろうと子供は思うかもしれない。それは違うと思う」、など様々な意見が出されました。さらに、「学校はみんなで考えるには適した空間だけど、自分や社会のことについて深く考えたり、自分の違う価値観と向き合ったりする時間が『道徳』という名称でいいのか」という意見も出され、道徳とは何かというところまで、議論が発展しました。参加者全員が道徳という一つのテーマについて、多面的・多角的に考え、思考を深めていきました。
　最後に、椋木先生が道徳の評価のことについて説明されて、セミナーを終了しました。話し合いの仕方や、考えの違う人とどうやって意見を交わらせていくかを体感したセミナーとなりました。

受講者の感想より
〇道徳そのものについて考える機会は今まで無かったので、とても良い機会になりました。みんなで意見を出し合ったりその意見について考えたりと、これも道徳の授業みたいだなと思いました。
〇"道徳"という言葉そのものについて考えさせられる講義となりました。視点を広げるため、意見を共有するため、学校でやるからこそ見えてくるものなど、様々な点の"道徳"を多角的な面から考えるきっかけとなり、自分と他の人の価値観の違いを認めることにも繋がりました。今回の講義を通して学んだ事を様々な点で活かしていきたいです。
〇今回の講座では、自分がずっと疑問に思っていた道徳の授業についてだったので、とても話を聞くのが楽しかったです。道徳の時間に私は、自分の意見をそのまんま書けるときもあったけれど、大体は、きれいごとで書いていました。道徳はテストがなく、ノートや話し合いで評価されていたけれど、それはずっと自分の評価のためと思っていました。しかし、それは、先生たちが、生徒たちの本音をどうすれば引き出せるのかを考えるための評価だと知り、とても納得しました。中学校も小学校も、道徳の授業があったと思うので、今のうちから子供の頃はどういう気持で授業を受けているかなどを記録して教師のときに参考にできるようにしたいです。